地元産業界・地域等と地域解決に向けた連携事業の実施について（2021 年度）

本学は、真砂小学校区コミュニティ協議会とパートナーシップ協定を締結し、住民の高齢化が進む本学周辺地域において、「学生と地域住民でワクワクする新しい事業を形にすることにより地域活性化に寄与」することを目的に、地域住民と本学学生とが参加するワークショップや懇談会を定期的に開催しています。

2021 年度は、真砂小学校区コミュニティ協議会会長と新潟西海岸リゾート計画協議会会長をお招きし、アフターコロナにおける学生の地域貢献について意見交換を行う「地域の課題解決に向けた地域と学生の懇話会」を開催しました。

地域の課題解決に向けた地域と学生の懇話会

日　時	2022 年 3 月 22 日（火）14 時 00 分～15 時 00 分	
会　場	明倫短期大学 第二会議室	
出席者	真砂小学校区コミュニティ協議会	高田豊会長
	新潟西海岸リゾート計画協議会	原澤秀明会長
	明倫短期大学歯科技工士学科 2 年	本田あかりさん
	明倫短期大学歯科技工士学科 1 年	涌井陸さん
	明倫短期大学学生部長・地域連携委員会	植木一範准教授
	明倫短期大学地域連携委員会	木下美香助教
	明倫短期大学事務局長	渡邉高志

懇話会は、明倫短期大学・渡邉事務局長からの懇話会開催趣旨説明、出席者の自己紹介の後、真砂小学校区コミュニティ協議会会長・高田様より、地域コミュニティ協議会がどのような団体なのか、また、真砂地域が抱えている現在の課題についてお話いただきました。その後、学生からみた真砂地域の様子、地域貢献活動、課題解決に向けた今後の取り組みなどについて意見交換を行いました。

懇話会の模様（明倫短期大学）

以下、出席者からの意見など要旨です。（敬称略）

渡邉　　本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

大学の果たす機能には、教育と研究の他、社会貢献活動を行うことが求められています。本学のような小規模短期大学は、以前より地域と密着した取り組みを行っており、3 年前に、真砂小学校区コミュニティ協議会様とパートナーシップ協定を締結し、本学の経営資源を生かし、地域が抱えている課題を一緒に考え、解決に向けて取り組むこととしています。

明倫短期大学・渡邉事務局長

３年前に、地域住民の皆様と本学の学生が、一緒に地域の課題解決について考えるワークショップを開催し、地域のマップづくりなどのアイディアを学生より提案しました。一昨年、昨年とコロナ禍の影響でワークショップを開催することができませんでしたが、今年、あらためて真砂小学校区コミュニティ協議会・高田会長様と新潟西海岸リゾート計画協議会・原澤秀明会長様をお招きし、現在、地域が抱えている課題や将来に向けての展望などを伺い、学生のみなさんと一緒に、本学がどのような地域貢献ができるかを考えてみたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。はじめに、出席者の皆様より、一言ずつ、自己紹介をお願いします。（自己紹介）

それでは、はじめに真砂小学校区コミュニティ協議会・高田会長様より、地域コミュニティ協議会がどのような団体で、現在、この真砂小学校区がどのような課題を抱えているのかをお話いただき、その後、みなさんからのご意見を伺いたいと思います。

高田　　ご紹介いただきました真砂小学校区コミュニティ協議会会長の高田です。

学生の皆さんが住んでいる町には、必ず自治会や町内会がありますよね。略称「コミ協」と呼ばれている地域コミュニティ協議会は、小学校や中学校の校区を単位として、その校区内にある自治会や町内会を中心に構成された組織です。それぞれの自治会や町内会が抱える課題など、地域づくりについての情報を共有し、話し合って、地域の課題解決に向けた活動を行っています。真砂小学校区コミュニティ協議会は、明倫短期大学が所在している真砂３丁目自治会を含め 19 の自治会と 14 の団体で組織され、世帯数は 4,600 を超えます。

現在、真砂小学校区コミ協が抱えている大きな問題は「高齢化」です。

私が、この真砂地域に移り住んだ昭和 46 年当時は、たくさんの人で賑わっていました。現在の小針十字路は、小針銀座とも呼ばれていました。それが、だんだんと人口が減り、高齢者が増え、現在の高齢化率は 35 パーセントを超えています。新潟

市西区の中でも一番高齢化が進んでいる地域なのです。人口の減少と高齢化は、例えば毎年行っていたお祭りができなくなった等、地域活動に大きな影響を与えています。

真砂小学校区コミュニティ協議会・高田会長

高齢者の一人暮らしが増えていることも大きな課題の一つです。今年は、それほど多くの雪はなかったのですが、ちょっとした積雪でも、一人暮らしのお年寄りは雪かきができず、外出ができなくなってしまいます。３年前、新潟市沿岸部に津波注意報が発令されたことがありました。津波が発生した場合のこの地域の避難場所は、西新潟中央病院に設定されていますが、高齢者にはあまりにも遠く、実際に津波が発生した場合に、逃げ遅れる方がたくさんいるのでないか、ということが懸念事項になっています。明倫短期大学は、そのような時の緊急避難場所としての役割も果たしています。

災害発生時など、いざ避難するときに備えた体制づくりは地域活動の大きな柱となっていますが、それには、一人暮らしの高齢者との常日頃からのコミュニケーションがとても大事になっています。「こども食堂」って、聞いたことがあると思いますが、一人暮らしの高齢者のための食堂開放も明倫短期大学にはしてもらっていますが、これをもっと活用し、地域の「茶の間」にできればなと思っています。

原澤　私は、真砂地域に生まれ、昨年 50 周年を迎えた真砂小学校の OB であり、親となった今、一昨年まで真砂小学校の PTA 会長も務めさせていただきました。

地域の活性化のためには新事業の立ち上げが必要であろうと考えていますが、その試みとして、真砂海岸での花火の打ち上げを一昨年より実施しています。

今年も実施予定ですので、明倫短期大学の学生の皆さんにぜひお手伝いただければと思っています。

新潟西海岸リゾート計画協議会・原澤会長

地域貢献は、ごくごく身近なことから始められるもので、例えばゴミ拾いアプリ「ピリカ」などを活用して、「こんなものが捨てられていました。」と、発信することでゴミのポイ捨てを防止することもできます。
大切なのは、小さな活動でも続けていくことでして、そのためには、自分たちが楽しくできる地域貢献をしてもらいたいと思っています。できれば、それを明倫短期大学の伝統にしてもらいたいなと願っています。

涌井　高校での学生会活動で挨拶運動に携わっていたこともあり、小針駅からの通学路で出会った地域のみなさんに挨拶をしていますが、他の地域と違って、多くの方が挨拶を返してくれ、とてもいい印象をもっています。大学全体でできるようになればもっと良いなと思いますが、まずは、自分自身が挨拶を続けることで、地域のみなさんと交流をつくるきっかけにできればなと思います。

明倫短期大学・涌井さん

本田

明倫短期大学・本田さん

私はバスで通学していますが、買い物にバスを利用している方をよく見かけ、大変なんだなと感じることがありました。一昨年、昨年と新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、シーサイド・ウォーキングなどの大学行事が中止になり、地域住民のみなさまのみならず、学生同士での交流もなかなかできず残念に思っていました。今後、いろいろな行事をとおして地域のみなさんとの交流を深めていけたらいいなと思います。

木下　通勤時、等間隔に町内会のスタッフの方が、見守り活動をしているところを見て、地域の結束性を感じました。今後も、こういった地域の方々との懇談会を通じて、地域の中にある短期大学の社会貢献性を考えていきたいと思います。

高田　あいさつ運動は、真砂コミ協でも強化している活動です。ぜひ今後も続けて欲し

いです。また、主に小学生を対象とした見守り運動も各自治体でも取り組んでいるところですが、これも担い手の高齢化が進んでおり、人手が足りていないのが現状です。学生さんの手助けがあると本当に助かります。

明倫短期大学・木下助教

バスの乗り降りのことについては、高齢者が多いこの地域では不便だと真砂コミ協でも話が出ていて、今ある西区バスよりもっと小さく、路線が小道にも入るバスの協議も過去しています。

真砂コミ協は、現在、防災活動に力を入れています。防災キャンプなど、学生さんの積極的な参加をお待ちしています。また、コロナ禍の影響で中止となっている真砂文化祭も今年は開催を予定しています。ぜひ、明倫短期大学の学生のみなさんとコラボし、盛り上げていければと思いっていますのでご協力よろしくお願いします。

植木

明倫短期大学・植木准教授

一昨年、昨年と新型コロナウイルスの影響で、なかなか学生活動もままならず、地域住民のみなさまとの交流も促進することができませんでしたが、新潟ニュービジネス協議会と３年前に併催した地域の課題解決のためのワークショップなども再開し、地域の発展と学生の成長を目指した取り組みを行っていきたいと思います。